

会 議 録

会議の名称	令和7年度 第3回西東京市環境審議会
開催日時	令和8年2月12日（木）午後5時から午後6時まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎3階庁議室
出席者	<p>【委員】 宇賀神委員(◎)、岡本委員、田村委員、花房委員、真中委員、吉田委員、伊藤委員（欠席：矢守委員（○） 河野委員） ◎会長、○副会長</p> <p>【事務局】 白井みどり環境部長、和田環境政策課長、内田環境係長、三城環境係主査</p> <p>【傍聴人】 なし</p>
議 題	<p>(1) 令和7年度第2回西東京市環境審議会会議録(案)の確認について</p> <p>(2) にしとうきょう環境アワードについて</p> <p>(3) 西東京市環境白書について</p> <p>(4) その他</p>
会議資料の名称	<p>資料1 令和7年度第2回西東京市環境審議会会議録(案)</p> <p>資料2 第5回にしとうきょう環境アワード募集要領(案)</p> <p>資料3 西東京市環境白書 令和6年度</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p>< 1 開会 ></p> <p>(会長より開会あいさつ)</p> <p>(事務局より、日野委員の令和7年11月28日付け任期前退任を報告。)</p> <p>(事務局より出欠席者及び傍聴希望者、配布資料の確認)</p> <p>議事</p> <p>(1) 令和7年度第2回西東京市環境審議会会議録(案)の確認について</p> <p>○会 長： 議題(1) 第2回西東京市環境審議会会議録(案)の確認について、事務局の説明を求めます。</p> <p>(事務局より、会議録について説明)</p> <p>○会 長： 会議録について承認でよろしいか。 異議なしと認め、会議録については承認しました。</p> <p>(2) にしとうきょう環境アワードについて</p> <p>○会 長： 議題(2) にしとうきょう環境アワードについて、事務局より説明を求めます。</p>	

(事務局より説明)

- 会 長： 意見等はありませんでしょうか。
- 委 員： 表彰の種類で、最優秀賞は(1)奨励賞、(2)企画賞(3)功労賞の受賞者の中から選ぶとある。賞の重みをどうやって付けていくのか。何故取れなかったのかという事に対し答えをどう考えているか。
- 会 長： 前回審議会で、奨励賞は全ての人に、その中で優れた人を企画賞にするが、別に功労賞が必要ではないかと話があった。
- 委 員： 功労賞はエコプラザ西東京協力員が、今回個人で表彰されたことがあり、そのための功労賞の設置だと思う。そうした場合、奨励賞と企画賞の中で最優秀賞を選ぶのが良いのではないか。
- 委 員： 奨励賞の意味合いも変わってくるような気がする。
- 委 員： 企画賞は新規の例のようなもので、奨励賞はこの取組は良いので継続的に取り組んで欲しいという意味と思う。
- 委 員： 奨励賞が長く続くと功労賞の違いが分からなくなっていくのでは。
- 委 員： 功労賞をもらった方は、翌年は出せるのか。
- 委 員： 前回の選考時の影響が出ていると思っている。市の活動の一端を担っているながらも独自でも活動しているということで、個人が同じ内容で何人もおり、功労賞で良いのではないかという話だった。
奨励賞は長く続けている方だが、活動を行っていく中で活動自体の膨らみや新しい挑戦をする方もあるので、そこを企画賞にするのは考えてあげた方がいい。前回でいうと市役所の花壇を綺麗にしたという続きから、絶滅危惧種である藍を育てて普及させようとする活動まで発展していった団体もあった。段階を経て上がっていくと企画賞の大賞にしてあげてもいいと思うので、まず細かい事を決めた上で、その中の最優秀賞をどこまでの幅に当てはまるのかを決めた方がいいと思う。
- 委 員： 確かに奨励賞で他の団体や学校も巻き込んで広がっていくというのもあったので、自分の所だけやり続けていくのではなくて、プラスオンして波及していくのは評価していいポイントになる。
- 会 長： 今の話から奨励賞はあくまでも同じことを継続している人たちは奨励賞、工夫し、プラスアルファなど全く変わったものについては企画賞という話ですね。では、功労賞の位置づけをどうしていくか。
- 委 員： 10年という基準もなぜ10年なのか、となる。

○委員： 前回、個人でエコプラザ西東京協力員が何人もおり、それはちょっと色合いが違うよねという話になったので、限定してしまう方がいいのでは。

○会長： 協力員は市の決められた活動、自分たちの相違工夫ではなく、長く続けられている方というのはどうか。年数は10年で良いのかという話もある。

○委員： 今回、この方達を表彰した経緯は、10年経った人がいるからなのか。

○事務局： 長年活動をされている方に対して感謝という気持ちもあり、一定程度10年と考えた。また他の市表彰制度の活動基準が概ね10年が一般的な所である。

○委員： これは応募があった方しか選ばれないのか。

○事務局： 自薦他薦となります。

○会長： 市で活動をし、目安は10年以上続けた方でどうか。

○委員： 昨年度応募した方は除くことでよいか。

○会長： そうですね。

○委員： ただ、変わったことを行っていれば、対象になるかもしれない。

○委員： そこの境目は難しいですね。

○委員： 変わるとしたら、市の方針が変わるときですね。

○会長： 奨励賞は変わりなく継続している賞、企画賞は新しいこと、また奨励賞から変えてきて良い取組だと企画賞に格上げしていく。功労賞は市の決まっていることに対し従事している方に対して10年単位程度で表彰していく。そして奨励賞、企画賞、基本的には企画賞になってしまうかもしれないが、最優秀賞を選んでいくことでいかがか。

○委員： 同意

(3) 西東京市環境白書について

○会長： 議題（3）西東京市環境白書について、事務局より説明を求めます。

（事務局より説明）

○会長： 意見等はありませんでしょうか。

○委員： 用語説明をつけていただいたが、まだ難しい用語があるという印象である。下保谷四丁目特別緑地保全地区保全活用計画が随所に出てきていて、ここがすごく大事な場所として考えられていると感じた。

○委員： 47ページのCO₂排出量で、2022年度から2023年度は何故下がったのか。

○事務局： 電気使用において、化石燃料から再生可能エネルギー由来の電気に切り替えた。

○委員： 2023年度から2024年度は数%削減だが、残り半分のCO₂削減はできるか。

○事務局： CO₂排出量の内訳において、電気使用の排出量は、こもれびホール、スポーツセンターなど指定管理者が運営する施設になる。指定管理者が再生可能エネルギー由来の電気を利用すれば削減となる。都市ガスについては、田無庁舎、エコプラザ西東京においてカーボンオフセット都市ガスを導入している。今後、随時導入していくこと並びに建物更新時期に省エネルギー機器を導入し、削減していきたい。

○委員： どこかで下がり率が低くなっていく。学校は電気を使用するので、学校の建て替えなどがある時にこういった視点を入れ、計画的にやっていると下がると思う。

○委員： 大きく下がったことは大事なことだと思うが、電気そのものがどのくらい使われなくなったということも重要であり、無駄な電気の使い方をしている所に再生可能エネルギーを充てるのは無駄だと思う。再生可能エネルギーを導入すればいいのではなく、使用量そのものも減らしていかなくてはいけないと思う。白書は排出量の推移は見られるが、エネルギー使用量の推移が見えない。電気の係数によって下がったのか、使用量が減って下がったのか、この要因が切り分けられるとよいと思う。

自治体ができる仕事として普及啓発、情報提供があるが、最終的にCO₂が減る、減らないという所に至るのは、これを見た人がどう感じたかという部分がかかなり大事だと思う。情報提供が効果的だったかを確認できる術があるとよい。

また、これまでのフロン適正処理は、基本的に回収してきて破壊するのが適正処理だったが、今は破壊ではなく、再利用の流れになりつつある。

○委員： 西東京市はごみの削減率が日本全体で上位にいることを、市民や市内企業に認知してもらって、素晴らしい結果に結びついている。多摩地区はごみ処理場が少ないという理由でやむを得ず頑張ってきた歴史もあると思うが、都知事の「これから23区を有料化して行って、都全体のごみを削減し、それによってCO₂も少なくすることを都は目指している」という言葉を引用しつつ、今後は23区が我々を見習っていくんじゃないのかという事を少しずつ告知していくと、CO₂をどのくらい排出しているのか、ごみ分別の結果がこういうことに繋がっているなら頑張ろうとかというように比較することで人は頑張るので、そういう施策を考えられたらいい。

○委員： 学校は大事だと思う。例えばプラスチック削減について言うと、いくらプラスチック削減の重要性を教えても、現実はまだにもプラスチックだらけ

で自分がどうこうできる問題ではないというようになってしまうので、そうではなくて頑張っで西東京市はこうなんだよという事を知ってもらって、無力感ではなくてやる気になってもらう情報提供を子どもに伝えていくことが大事だと思う。

- 委員： 以前、集めたごみからブロックに再生して、別の役割として使われていることを聞いた。このような流れを小中学生に教えると子どもは素直に浸透していく。知る機会が学校現場やコミュニティで増えていくと接点が増えていく。
- 事務局： 資源循環推進課では、全学校に出前講座に行っで、4Rの話、パッカー車の見学を行っで、好評と聞いている。東小学校では、職員と一緒にごみ拾い、公園の清掃活動を実施し、体験発表をして特色のある取組を実施している。
- 委員： キャップの集め方も工夫されていっで、アワードに表彰されたが、子どもたちの方が熱心で、石神井川清掃など意識は高いと感じ、もっと応援する、評価することが大事と思う。
- 委員： ごみの焼却施設が足りないという問題に対処することから結果的に全国上位に上がってきた。
- 委員： やればできるということですよ。自分たちの生活の頑張りが繋がっているというのは、どこかで分かったほうがよい。
- 委員： 頑張るのは大事だが、それ自体が楽しいというマインドチェンジがあるといいと思う。意外と家庭のエネルギーの使い方は、人の家と比べたことはなくて、自分流しか知らない。同じようにごみの出し方も他の家庭のことはみんな知らない。工夫して楽しくやっでいる方の話を広めるようなものもあっでいいと思う。
- 委員： 48ページの水道使用量のところで、水に関しても非常に重要は要素になってきている。6.5%の削減の要因はなにか。
- 事務局： 学校のプールが減っていると考えられる。
- 委員： 夏休みの学校プールも今は暑すぎてできない。18校でプールを行わなければ、当然、水の量も減少する要因になると思う。
- 委員： これが意図的に減ったのであれば、全国的に比較対象として同じような流れの動きになるのかなと思った。
- 委員： 子どもたちの取組は大事だ。キャップの回収は、中学校の時に学年、学校単位でキャップを集める量を競った。それが体育祭、文化祭ぐらいの盛り上がりで、今思うと環境に繋がっでおり大事だと感じた。

○委員： 一種のゲームとしての枠組みに落としやすい。

○委員： それは事業者にもできるのでは。企業同士で連携して何かを回収していくなど、個々には色々な努力はされているがあまり目立たない。様々な業種に色々な事を求められる時代が変わってきており、環境に優しい姿勢を示していない会社は取引から外されることもあり取り組んでいる。個々の事業者も行っている。それを見える化し、市内の中でいい意味での競争ができるような仕組みができたらいと思う。

○委員： 楽しんで取り組むことが見えてきたりすると波及していく。こんなことを西東京市でやっているみたいな感じで、他の所でも真似しようとなると思う。そのゲーム性、楽しさというのを作っていくので、競い合いも大事だと思うが、工夫ですよね。

○委員： 企業の方が一緒に取り組めるインセンティブのような「にしとうきょう環境チャレンジ」企業版があるといいですね。

(3) その他

○会長： 事務局の方からありますか。

(事務局より参考資料の説明)

○委員： カーボンオフセット事業で、北杜市と協定を結んだとのことだが、友好都市の勝浦市はどのようなのですか。

○事務局： 森林整備という部分で、多くの森林がある北杜市が協力いただけることになった。

(事務局より)

本年度の審議会は今回で終了となり、委員皆様の任期も6月30日となり、今回が現委員では最後の会議となります。2年間どうもありがとうございました。

委員の皆様から一人ずつ、感想をお願いいたします。

事務局からは以上になります

< 3 開会 >

○会長： それでは以上となります。お疲れ様でした。